詳報 需給調整施設対策費 26年度で支払い完了

よつ葉乳業の生乳処理能力増強 需給緩和時の完全処理に効果大

よつ葉乳業オホーツク北見工場（紋別市）の生乳処理能力増強に向け、道内の生産者が平成19年度から負担してきた「需給調整施設対策費」（受託生乳1kg当たり3銭1厘5毛）の支払いが26年度末で終了した。支払い実績の報告とともに、生産者が負担してきた目的や同工場の役割を改めて紹介する。

■生産者負担の経過

脱脂粉乳の過剰在庫が問題となるなど、生乳需給の大幅な緩和を受け、道内の出荷乳量は平成17年度に乳業工場の生乳処理能力を超える事態となり、第4四半期には一部生乳の産業廃棄物処理を余儀なくされた。

このため、18年7月6日の第5回生乳受託販売委員会と同月24日の第4回生乳受託販売委員会特別委員会で対応を協議した結果、「本道酪農の更なる発展のためには生産者自らが生乳処理能力の増強に積極的に関与すべき」として、系統乳業のよつ葉乳業に生乳処理能力の増強を依頼することとした。その際は北見、十勝両地区のうち、緊急性の高い北見地区を優先した。

しかし、この生乳処理能力の増強は、よつ葉乳業全体では、一時期しか稼働しない「余力＝不稼働」となる。このため、当該生乳処理能力は「指定団体の処理余力」と位置づけ、生産者と指定団体、よつ葉乳業の3者で経費を負担するほか、関係行政の支援を要請することとした。

こうした協議経過を踏まえ、18年11月27日の第7回生乳受託販売委員会で、生産者負担分については19年度から「需給調整施設対策費」として共計控除を行い、よつ葉乳業に支払うこととした。

その際、生産者の負担額は、投資総額約37億円のうち、国・行政の補助金（約16億円）のほか、よつ葉乳業（7億円）、ホクレン（5億円）を差し引いた残額（約9億円）とした。

■生産者の支出実績

生産者負担分の支払総額は、最終的に9億4185万円（不課税）となった。

支払い方法は、平成19～27年度まで分割払いにより、各年度、共販経費として受託生乳1kg当たり3銭1厘5毛を乗じた金額を控除の上、支出した。

26年度3月分については、支払総額と既支払額との差額を、27年4月30日に支出し終了した。

■施設の稼働状況

実際に、よつ葉乳業オホーツク北見工場の生乳処理能力増強は、次のような、生乳需給が緩和した際に大きな役割を果たした。

一つは、平成20年秋に発生したリーマンショックの影響もあり、21年春に国内の牛乳乳製品需要が大きく低下したときだ。本会はチーズの委託加工の実施とともに脱脂粉乳・バター等向け処理を最大限まで引き上げた。

また、23年3月には東日本大震災が発生し、直後は生乳・液状乳製品の道外移出や、飲用牛乳製品の移出がすべて停止するなど、流通が混乱する中、生乳の完全処理に向けて取り組んだ。

こうした状況の下で生乳廃棄を免れることができたのは、増設されたオホーツク北見工場の生乳処理が、17年度当時（概ね日量420㌧）と比較して増加（日量600～620㌧）したことが一因だった（図1）。

さらに、これは毎年のことだが、特に飲用需要が減少する年末年始において、本会は受託生乳の完全処理に向け、全乳業者に対し乳製品工場の高稼働を要請しており、オホーツク北見工場では21年度以降、日量500～600㌧の処理を行っている（図2）。

■総括と今後

平成17年度の経過を受け、生乳廃棄を二度と発生させない取り組みとして実施したよつ葉乳業オホーツク北見工場の生乳処理能力増強は、同社協力の下、需要低下に伴う需給緩和時（年末年始含む）や、震災などの緊急的な過剰時にフル稼働するなど、生乳の完全処理に大きく貢献している。

今後も、需給緩和や災害などの緊急的状況が発生する可能性は否定できないため、生産者自らが需給調整機能を確保し続けることが、安定的な生乳生産体制には欠かせない。

このため、26年度末で生産者の拠出は終了したものの、酪農生産基盤の強化とともに、引き続きオホーツク北見工場の生乳処理能力を適切に維持することが肝要で、本会はよつ葉乳業と連携した上で、受託生乳の完全販売に努めていく。

よつ葉乳業オホーツク北見工場の乳製品加工施設（中央の2層式の建物）

生乳処理能力 27万㌧に拡大

生乳処理能力の増強に向け、よつ葉乳業はオホーツク北見工場に新たな乳製品加工施設を建設し、平成19年11月29日に竣工した。

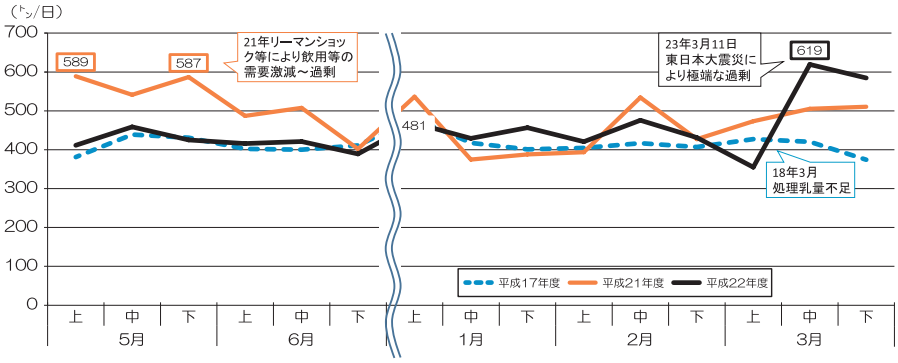
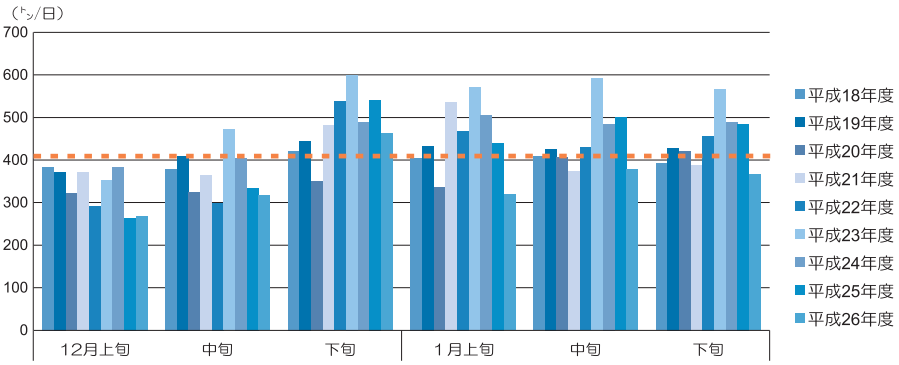
乳製品加工施設は鉄骨6階建てで、建築面積は2500㎡（約760坪）、延床面積は5100㎡（約1540坪）。

製造品目は、脱脂粉乳とバター、脱脂濃縮乳、クリームの4品目で、主要設備として分離殺菌設備や濃縮乾燥設備、粉乳充填機、クリーム・濃縮乳出荷設備、バターマシーンなどを備える。

生乳処理能力は年間12万㌧。この結果、オホーツク北見工場の生乳処理能力は、それまでの（既設工場の）15万㌧から、1・8倍の27万㌧に拡大した。

なお同工場は、地元酪農家の要望に応え、乳製品加工施設の竣工を機に、工場名を従来の「北見工場」から変更している。

■図1. よつ葉乳業オホーツク北見工場の処理乳量の比較（平成17年度：21・22年度）



■図2. よつ葉乳業オホーツク北見工場の年末年始の処理乳量